

重要性を増した課題及び新たに生じた課題の新たな振興計画(素案)に記載された箇所一覧

参考資料 2

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
離島振興(産業振興) 生活基盤整備	水資源の確保について	(問題)観光客の飛躍的増大や気候変動に伴い、島によっては水資源の不足が懸念される。 (課題)離島毎に水資源の確保について検討が必要である。	P73	①水道施設の整備、水道広域化の推進、水道用水の安定確保 □水源が限られた離島地域において安定的な水の供給が持続できるよう、既存水源施設の維持・修繕を行うなど水資源の安定的な確保に取り組む。
防災	水害に関する対策について	(問題)水防災意識社会の再構築、水防法・土砂災害防止法の改訂、要配慮者利用施設避難確保計画の義務化など、豪雨災害に係る法・制度が大きく変更されている。 (課題)沖縄県における、水防に関する総合的な対応の検討が必要である。	P79	③避難誘導體制の構築 □浸水想定区域、土砂災害警戒区域等に所在し、市町村地域防災計画で避難確保計画の策定が必要であるとされた医療施設、社会福祉施設や学校に対し、避難確保計画の策定状況を確認するとともに、未策定の施設については、避難確保計画の策定支援に取り組む。

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	自転車利用推進について	<p>(問題)自転車利用推進法が制定され、県内においても自転車道の整備が進んでいるが自転車の利用率が低い。</p> <p>(課題)自転車の利用促進対策が必要である。</p>	<p>P34 P147 P196 P206</p>	<p>①次世代型交通環境の形成</p> <p>□人口が集中する本島中南部地域においては、公共交通利用や多様なモビリティを利用するライフスタイルへの転換に向け、バス、モノレール、カーシェアリング、自転車利用、コミュニティバス、福祉交通等の移動抵抗の小さい交通手段の導入やパークアンドライドの利用の促進等に取り組む。</p> <p>②体系的な道路ネットワークの構築</p> <p>□AI、IoT、ビッグデータ等の新技術等を活用して道路利用を効率化し、歩行者や自転車、公共交通等の多様なニーズに対応した道路空間の有効的な活用に取り組む。</p> <p>(5) シームレスな交通体系の整備と鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入</p> <p>多様な活動を支える交通システムの導入と利用促進に当たっては、人間中心の良質な交通環境を実現するため、道路空間と沿道空間との一体的な利活用、既存道路空間の再配分を含む道路空間の柔軟活用、歩行者・自転車をはじめとする多様な移動手段の安全かつ快適な利用環境の整備・改善、駅やバス停等の乗り継ぎ・待合環境の向上など、各種の取組を推進する。</p> <p>②交通及び物流基盤の整備</p> <p>□海中道路から本島北部地域をはじめ、快適に移動できる自転車通行空間の整備を推進する。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	自転車利用推進について	<p>(問題) 自転車利用推進法が制定され、県内においても自転車道の整備が進んでいるが自転車の利用率が低い。</p> <p>(課題) 自転車の利用促進対策が必要である。</p>	<p>P212</p> <p>P213</p> <p>P220</p>	<p>①持続可能なまちづくりの推進</p> <p>□西海岸地域において、特に、沿岸に都市の連たんする地域については、海浜、公園、自転車道、遊歩道等の一体的な整備を促進するとともに、リゾートホテルやコンベンション、マリーナ等の集積を生かして観光関連施設の集積を図り、快適で魅力ある世界水準の都市型オーシャンフロント・リゾート地の形成を図る。</p> <p>①生活基盤の整備</p> <p>□市町村が取り組む「自転車ネットワーク計画」等の広域的な連携と展開等により自転車通行空間の安全性確保やシェアサイクルの導入促進など、都市交通システムにおける交通手段として自転車利用環境の向上を図る。</p> <p>②交通渋滞の緩和に向けた交通ネットワークの構築</p> <p>□市町村が取り組む「自転車ネットワーク計画」等の広域的な連携と展開等により自転車通行空間の安全性確保やシェアサイクルの導入促進など、都市交通システムにおける交通手段として自転車利用環境の向上を図る。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	沖縄都市モノレールの輸送力増強について	<p>(問題) 沖縄都市モノレールの乗客数は予想を上回るペースで増加しており車両や駅舎等の混雑が問題となっている。</p> <p>(課題) 沖縄都市モノレールの施設・設備等については、増加する需要に対応できるよう輸送力の増強等について検討する必要がある。</p>	P34 P147 P196	<p>②公共交通システムの戦略的再編</p> <p>□過度な自家用車保有・利用から公共交通利用への転換を図るため、定時速達性に優れた幹線公共交通機関としてモノレールの輸送力の増強に取り組む。</p> <p>③沖縄都市モノレールの機能強化</p> <p>□沖縄都市モノレールは、県民や観光客の公共交通の基盤である。令和元年には、首里駅～てだこ浦西駅までの延長が実現し、県内唯一の定時定速の公共交通機関として重要性が増している。沖縄都市モノレールの乗客数は予想を上回るペースで増加していることから、地域間を結ぶ交通ネットワークの拡充を図るためにも、今後の需要動向を踏まえ定時速達性に優れた幹線公共交通機関として、モノレールの輸送力増強・高速化に取り組むとともに、駅舎の一部増築など、需要に合わせた整備を促進する。</p> <p>(5) シームレスな交通体系の整備と鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入</p> <p>都市内交通については、沖縄都市モノレールの3両化を推進するほか、モノレールの延伸やLRT / BRT*10等の導入についても並行して検討を進めるなど、本県の重大な社会的課題である交通渋滞対策に取り組むとともに、多様な交通システムの導入に向けた段階的な取組を推進する。</p>
防災	無電柱化による防災について	<p>(問題) 台風常襲地帯の本県においては、電柱の倒壊などに伴う停電により県民生活や様々な産業に影響が出る可能性がある。</p> <p>(課題) 安全・安心、観光の振興など防災・産業振興の観点から無電柱化推進の更なる検討が必要である。</p>	P52 P79	<p>③沖縄固有の景観資源の保全・継承</p> <p>□都市景観の向上については、防災面での機能も併せた電線共同溝による無電柱化等を推進し、良好な景観の創出に取り組む。</p> <p>④緊急時における輸送機能及び避難地等の確保</p> <p>□災害発生時においては、住民が迅速かつ的確な避難行動を取ることが重要であるため、避難地としての都市公園の整備や避難経路の確保及び緊急輸送道路の無電柱化など緊急輸送機能を持つ施設の整備に取り組む。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	通学路の安全対策について	(問題)通学路において重大事故が発生するなど安全対策が急務となっている。 (課題)通学路における安全・安心な歩行空間に関する更なる検討が必要である。	P80	⑤交通安全対策の強化 □交通事故の防止や安全で円滑な道路交通を確保するため、幹線道路や生活道路において交通安全施設等を重点的に整備・更新するとともに、最先端のICTを活用した高度道路交通システム(ITS)の整備等に取り組む。
防災	地域継続計画等, 県土としての復旧計画について	(問題)防災計画について、社会基盤の耐震化や設備、機材の確保について検討が求められている。 (課題)沖縄県の防災計画については、社会基盤や設備、機材などについて幅広い分野で総合的な取り組みを行うほか、市町村においては国土強靱化地域計画などの策定が必要である。	P79 P213 P222	③避難誘導體制の構築 □各種災害の発生を想定したハザードマップの作成、各種即報システムの拡充・強化を図り、県民や本県を訪れている観光客に向けた情報発信の強化に取り組む。 □浸水想定区域、土砂災害警戒区域等に所在し、市町村地域防災計画で避難確保計画の策定が必要であるとされた医療施設、社会福祉施設や学校に対し、避難確保計画の策定状況を確認するとともに、未策定の施設については、避難確保計画の策定支援に取り組む。 □大規模災害等に対応した社会インフラや公共施設等の防災減災対策及び長寿命化対策を推進する。 ③ 持続可能なまちづくりの推進 才生活基盤の充実 □大規模災害等に対応した社会インフラや公共施設等の防災減災対策及び長寿命化対策を推進する。

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
防災	災害時避難所及び支援の充実について	(問題)災害時の避難所の設備や要配慮者への対応が求められている。 (課題)避難所における設備や要配慮者などの対応を各部署において検討する必要がある。	P67 P79	② 困難な生活を支える支援体制の構築 □高齢者をはじめとする要配慮者の災害時避難における福祉避難所の適正配置及び配置の促進、大規模災害時に一時避難所で災害時要配慮者を支援する沖縄県災害派遣福祉チーム「DWAT おきなわ」の登録・養成研修に取り組む。 ④ 緊急時における輸送機能及び避難地等の確保 □避難所においては、停電に対応するための非常用電源の確保をはじめ、感染症対策を考慮したパーティション、アルコール消毒液、簡易トイレ、毛布等の備蓄物資の確保に取り組む。 □要配慮者の数や状況に応じた福祉避難所が適切に配置されるよう、市町村における福祉避難所の指定促進に向け取り組む。
製造・中小企業等振興	建設産業におけるものづくり産業の振興	(問題)建設産業の高度化にともない、ものづくり産業の支援制度が求められている。 (課題)沖縄県においては建設業は重要な役割を果たしており、建設関連業の高度化・振興を支援する必要がある。	P127	① 公共工事の品質確保と建設産業の高度化支援 AI、IoT、ロボット、ビッグデータ等の新たな技術の活用により、建設産業の高度化を促進し、県内はもとより、アジア・太平洋地域に積極的に技術貢献しうるグローバル産業としての新たな展開に取り組む。 □社会ニーズに対応した新たな技術の開発等による経営の多角化や協業化等による経営基盤の強化に取り組む。 ② 地域特性に適した技術の研究・開発の促進及び海外建設市場等への進出 □社会ニーズに対応するため、産学官連携の下、自然環境の保全・再生、循環型・低炭素都市づくり、沖縄らしい風景づくり、耐震化・老朽化及び長寿命化、生産性の向上等に対応した新たな工法・資材等の技術開発に取り組む。

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	人口減少時代の都市構造への転換について	(問題)人口減少時代に対応した都市構造への転換が求められている。 (課題)コンパクトプラスネットワークなど、人口減少時代に対応した都市構造への転換に向けた長期的な取り組みが必要である。	P35 P192	④歩いて暮らせる環境づくり □誰もが身近な場所で充実した活動ができるよう、中心市街地の活性化、土地区画整理事業や市街地再開発事業等を促進し、公園、道路、宅地等の一体的な整備に取り組む。 □コンパクトなまちづくりを図るため、都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に集約し、その周辺や公共交通の沿線等に居住の誘導を図られるよう、市町村の取組を促進する。 (1) 県全体の持続可能な発展を牽引する中南部都市圏の形成 □人口減少・超高齢社会の進行やポストコロナにおけるライフスタイルの変化等を見据えつつ、中南部圏域を構成する各地域の個性や特長を生かした多核連携型の都市圏の構築を図り、多様性と包摂性、魅力と国際性を備えた持続可能な都市圏の形成に取り組む。

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	増加する観光客の受け入れ環境整備について	(問題)観光客の大幅な増加に伴い、地域・離島においては観光客の受け入れが課題となっている。 (課題)観光客の大幅な増加に対応した道路、空港、港湾などの社会基盤整備等の在り方について検討が必要である。	P76 P89 P90	<p>①離島空港の機能強化及び離島航空路の確保・維持</p> <p>□離島港湾については、海上交通の安全性と安定的航行の確保とともに、ユニバーサルデザインを取り入れた関連施設の整備など、港湾機能の強化・充実に努める。</p> <p>□離島空港の機能充実のため、新石垣空港、下地島空港において、各ターミナルビル社による国際線旅客受入体制整備に係る取組を支援する。</p> <p>③地域特性に応じた島内移動手段の確保</p> <p>空港、港湾・漁港等の交通拠点間を相互に連結させるため、離島の地域特性に応じた道路整備を推進し、島内移動手段のシームレスな連携接続に取り組む。</p> <p>(2)世界から選ばれる持続可能な観光地の形成と沖縄観光の変革</p> <p>□本県への入域観光客については、収束後を見据えた交通手段、空港・港湾、陸上交通等の社会基盤のスケールや機能など供給面の対応が必要である。</p> <p>①「安全・安心の島」の構築に向けた受入体制等の整備</p> <p>□空港・港湾においては、多数の外国人旅行者等が同時に入域するスムーズでストレスのない玄関口として、CIQの迅速化等に取り組む。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
人材育成	建設関連産業人材の育成と確保について	(問題)建設業界では人材が不足している。 (課題)幅広い人材の育成・確保と建設産業の魅力発信が必要である。	P175	<p>④建設産業を担う人材の育成・確保</p> <p><input type="checkbox"/>顕著となっている人手不足対策については、若手や女性従業員を対象とした研修等を支援するなど、多様な人材の確保に取り組む。特に、AI、IoT、ロボット、ビッグデータ等の技術革新に対応できる人材を積極的に登用し、今後の情報技術や新技術を活用した生産性向上の取組強化を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>多様化・高度化する市場ニーズに対応できるよう、技術者・技能者等の育成・確保に取り組むほか、海外建設市場等の新市場進出に向けた取組や国際交流等を通し、海外建設市場において必要とされる技術力や語学力、海外の商習慣等への知識を有する人材の育成・受入れ促進に取り組む。</p> <p><input type="checkbox"/>週休二日制の促進など労働環境の改善を図り、将来の建設産業を担う人材を確保するための建設産業の魅力発信に取り組む。</p> <p><input type="checkbox"/>多様化・高度化する市場ニーズに対応できるよう、技術者・技能者等の育成・確保に取り組むほか、海外建設市場等の新市場進出に向けた取組や国際交流等を通し、海外建設市場において必要とされる技術力や語学力、海外の商習慣等への知識を有する人材の育成・受入れ促進に取り組む。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 情報通信関連産業振興	EBPM(Evidence Based Policy Making)ーデータ・証拠に基づいた効果計測方法について	(問題)データ・証拠に基づいた施策展開が十分でない。 (課題)IoT、ICT、各種センサー技術、ビッグデータなどを活用した取組や施策の検討が必要である。	P33 P147 P148	<p>①次世代型交通環境の形成 □人々のライフスタイルの変化に対応するため、自動運転技術、MaaS、ドローン等の新技術の導入を促進するとともに、新技術等の基盤となる公共交通情報等のオープンデータを継続的に利用できる環境の構築に取り組む。</p> <p>②体系的な道路ネットワークの構築 □AI、IoT、ビッグデータ等の新技術等を活用して道路利用を効率化し、歩行者や自転車、公共交通等の多様なニーズに対応した道路空間の有効的な活用に取り組む。</p> <p>□最先端の交通テクノロジーを活用することで、都市部における混雑、地方部における交通手段の維持・確保など、交通に関連する様々な課題の解決のみならず、地域社会・経済や新たな都市の装置として都市のあり方やインフラ整備にもインパクトをもたらす可能性がある。 具体的には、IoT、AI、ビッグデータ、リアルタイムモニタリング、等の活用による交通システムや自動運転等により、道路利用の効率化が図られることから、公共交通や歩行者及び多様なモビリティに対応した道路空間への再配分を検討する。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	民間活力の導入(PPP/PFI)について	(問題)財政がひっ迫する状況において、民間活力の導入(PPP/PFI)が求められている。 (課題)限りある予算の効率的な執行が重要となっており、更なる民間活力の導入が必要となっている。	P70 P78 P186 P187	<p>③地域特性に応じた下水道等の整備 □汚水処理施設については、人口動態を注視し、下水道、農業・漁業集落排水施設、合併処理浄化槽など、地域の実情に応じPPP/PFIによる民間活力の利用も考慮し、各種汚水処理施設の計画的かつ効率的な整備に取り組む。</p> <p>②社会基盤等の長寿命化 □今後見込まれる膨大な施設の維持・更新を効果的かつ効率的に進めるため、ICTや非破壊検査技術等の新技術を積極的に活用するとともに、PPP/PFIも踏まえた民間活力の導入により、公共施設の長寿命化対策に取り組む。</p> <p>(3) 地域に根ざした政策金融の活用 □加えて、持続可能なまちづくりに向けたアドバイスやPPP / PFI の導入など 自治体支援も強化されており、沖縄公庫の政策金融ノウハウやネットワークを生かしたコンサルティング機能は、地域振興における重要性が増している。このため、本県の地域事情に精通し、政策金融を一元的・総合的に行う沖縄公庫については、現行の組織及び機能の維持存続を図った上で、各種金融支援制度の整備やその活用促進など沖縄県や民間金融等と協調・連携した一層の役割発揮が期待される。</p> <p>(4) 安定的な自主財源等の確保 PPP / PFI やSIB(Social Impact Bond)など、官民連携による新たな財源の確保や有効活用を基本方向に、民間事業者のノウハウや資金を活用する事業手法の導入に取り組み、行政コストの低減や資金調達が多様化を推進する。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	社会基盤施設の老朽化対策について	<p>(問題) 社会基盤施設について、厳しい環境条件や施設の多くが50年を経過することによる耐久性能の低下及び老朽化が懸念されている。</p> <p>(課題) 膨大な維持・更新費用を限られた人員、予算の中で必要な点検、診断、修繕、更新を長寿命化修繕計画等に基づき計画的に推進する必要がある。</p>	P70 P73 P78	<p>② 上水道の計画的な整備、水道広域化の推進と水の安定供給</p> <p>□ 今後の水需要や水質の安全性を確保するため、水道施設の整備や老朽化した施設の計画的な更新等による長寿命化対策に取り組む。</p> <p>③ 地域特性に応じた下水道等の整備</p> <p>□ 本県の下水道施設は整備から50年以上経過したものが多く、老朽化や耐震性能不足の施設があることから、点検・修繕等による長寿命化対策や効率的かつ計画的な更新・耐震化等に取り組み、下水道施設の強靱化を図る。</p> <p>② 污水处理施設の整備</p> <p>□ 老朽化した污水处理施設については、人口動態等を踏まえつつ、効率的かつ計画的な更新・長寿命化と耐震化等に取り組み、離島における下水道施設の強靱化を図る。</p> <p>③ 公営住宅の確保及び空き家等の活用</p> <p>□ 老朽化した公営住宅については、計画的な更新・長寿命化と耐震化に取り組む。</p> <p>② 社会基盤等の長寿命化対策</p> <p>□ 社会基盤施設については、適切な点検や診断の結果に基づき、予防的な補修・補強や計画的な施設の更新を進めることで、ライフサイクルコストの最小化と構造物の長寿命化に取り組む。</p> <p>□ 今後見込まれる膨大な施設の維持・更新を効果的かつ効率的に進めるため、ICTや非破壊検査技術等の新技術を積極的に活用するとともに、PPP/PFIも踏まえた民間活力の導入により、公共施設の長寿命化対策に取り組む。</p>

① 重要性を増した課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	社会基盤施設の老朽化対策について	<p>(問題)社会基盤施設について、厳しい環境条件や施設の多くが50年を経過することによる耐久性能の低下及び老朽化が懸念されている。</p> <p>(課題)膨大な維持・更新費用を限られた人員、予算の中で必要な点検、診断、修繕、更新を長寿命化修繕計画等に基づき計画的に推進する必要がある。</p>	P127	<p>②地域特性に適した技術の研究・開発の促進及び海外建設市場等への進出</p> <p>□社会ニーズに対応するため、産学官連携の下、自然環境の保全・再生、循環型・低炭素都市づくり、沖縄らしい風景づくり、耐震化・老朽化及び長寿命化、生産性の向上等に対応した新たな工法・資材等の技術開発に取り組む。</p>

重要性を増した課題及び新たに生じた課題の新たな振興計画(素案)に記載された箇所一覧

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
生活基盤整備	上水道の安全性確保について	(問題)米軍・嘉手納飛行場由来の汚染と思われる有機フッ素化合物(PFOS、PFOA)が問題となるなど上水道の安全性の確保が求められている。 (課題)県民の安全・安心の観点から上下水道の整備に合わせて水質の確保対策が必要。	P82 P213	③ 米軍活動に起因する環境汚染への対応 □ 普天間飛行場及び嘉手納飛行場周辺の河川や湧水で高濃度の有機フッ素化合物が検出されており、両飛行場が汚染源である蓋然性が高いことから原因の究明に努めるとともに、国に対して必要な調査と対策の実施を求める。 □ 米軍活動に起因して環境に影響を及ぼす可能性がある事象が確認され、または事故が発生した場合は、国による環境調査や汚染の除去を求めるとともに、県及び市町村が環境調査・対策を実施した場合の財政措置を求める。 ① 生活基盤の整備 □ 北谷浄水場の水源となる比謝川等における有機フッ素化合物について、適切な水質管理の実施等により、水道水の安全性の確保を図る。

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 情報通信関連産業振興	Society 5.0に向けた社会基盤の整備について	(問題) Society 5.0に向けた社会基盤整備が求められている。 (課題) 各種計測技術の進展、さらには5Gなど通信関連の技術革新を見据えた社会基盤の在り方について検討が必要である。	P34 P140	<p>①次世代型交通環境の形成</p> <p>□本県の地域実情に応じた「沖縄型スマートシティ」の形成を念頭に、SDGs Society5.0社会に対応する地域と交通のあり方の調査研究を産学官が連携する体制を構築し、包括的・継続的に取り組む。</p> <p>ア次世代の通信環境に対応した情報通信基盤の整備</p> <p>□Society5.0の実現に向け、デジタル社会の形成や産業の競争力強化において、5 G やBeyond 5 G など、次世代の通信環境の整備が不可欠であり、海洋島しょ圏の新たなインフラとして、離島を含めた、次世代の超高速通信の環境整備を検討する必要がある。</p> <p>① 未来創造の情報通信基盤の構築</p> <p>□DX の基盤となる5Gの整備及びローカル5Gの導入をはじめ、次世代の情報通信基盤の構築に向け、民間通信事業者や関係機関と連携し、情報通信基盤の整備に取り組む。</p>

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	多様な移動モビリティについて	(問題)自動車交通以外の移動手段の選択が少ない。 (課題)多様な交通手段を選択できる社会の構築を図る必要がある。	P34 P145 P148	<p>①次世代型交通環境の形成</p> <p>□人口が集中する本島中南部地域においては、公共交通利用や多様なモビリティを利用するライフスタイルへの転換に向け、バス、モノレール、カーシェアリング、自転車利用、コミュニティバス、福祉交通等の移動抵抗の小さい交通手段の導入やパークアンドライドの利用の促進等に取り組む。</p> <p>エシームレスな交通体系の整備</p> <p>□本県の陸上交通において、自動車は経済活動や県民生活にとって必要不可欠な交通手段であることは確かなものの、過度な自家用車利用は様々な弊害を生むSDGsやSociety5.0等の観点から考えた場合、本島中南部地域においては、過度な自家用車保有・利用を前提とせず、公共交通を中心とした多様なモビリティによる移動でも自動車交通以上のサービスの提供が可能な交通環境の構築を図ることが求められている。</p> <p>⑤過度な自家用車保有・利用からの転換</p> <p>□本県は自動車の依存度が高く、自動車保有台数の増加、レンタカー利用の増加等により、慢性的な交通渋滞が発生している。特に人口が集中する本島中南部地域においては、過度な自家用車保有・利用から公共交通や多様なモビリティの利用へライフスタイルの転換を図る。</p> <p>□シームレスな交通体系の構築により、自動車以外の交通手段の魅力が向上することで、交通需要マネジメント(TDM)施策の一つである過度な自家用車保有・利用から公共交通等への利用転換が図られることから、パーク&ライドやシェアサイクルの利用促進、モビリティ・マネジメント(MM)等の推進を図る。</p>

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備	多様な移動モビリティについて	(問題)自動車交通以外の移動手段の選択が少ない。 (課題)多様な交通手段を選択できる社会の構築を図る必要がある。	P213 P220	②交通渋滞の緩和に向けた交通ネットワークの構築 □市町村が取り組む「自転車ネットワーク計画」等の広域的な連携と展開等により自転車通行空間の安全性確保やシェアサイクルの導入促進など、都市交通システムにおける交通手段として自転車利用環境の向上を図る。 ②交通渋滞の緩和に向けた交通ネットワークの構築 □市町村が取り組む「自転車ネットワーク計画」等の広域的な連携と展開等により自転車通行空間の安全性確保やシェアサイクルの導入促進など、都市交通システムにおける交通手段として自転車利用環境の向上を図る。

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 情報通信関連産業振興	Smart City(Smart Island)の考え方を踏まえた各施策の連携について	(問題)都市や離島における多様化する固有課題の解決のため各施策の連携が求められている。 (課題)各施策の連携について、AI、IoTなどの新技術を用いて都市や地域の課題を解決するSmart City(Smart Island)の考え方を踏まえた取組の検討が必要である。	P34 P98 P149 P185	①次世代型交通環境の形成 □本県の地域実情に応じた「沖縄型スマートシティ」の形成を念頭に、SDGsやSociety5.0社会に対応する地域と交通のあり方の調査研究を産学官が連携する体制を構築し、包括的・継続的に取り組む。 ②マリンタウンMICEエリアを核とした全県的なMICE受入体制の整備 □マリンタウンMICEエリアにおいて大施MICE設整備を推進するとともに、宿泊施設や集客施設等の立地促進や施設利用者の交通便利性の確保、オープンスペースの賑わいやスマートシティの形成などMICEを中心とした魅力あるまちづくりに取り組む。 ⑤過度な自家用車保有・利用からの転換 □人々のライフスタイルの変化等を踏まえ、本県の地域の実情に応じた「沖縄型スマートシティ」の形成を念頭に、SDGsやSociety5.0社会に対応する地域と交通のあり方の調査研究を産学官が連携する体制を構築し、包括的・継続的に取り組む。 イ解決の方向性 □交通渋滞など本県で起きている様々な問題の解決に向けては、スマートシティやスマートアイランドの概念を踏まえ、AI、IoT、ビッグデータの県民・観光客目線での活用等により、交通や行政サービス等に係る社会基盤を効率的に管理・運営することで課題の解決を図っていく。

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 情報通信関連産業振興	Smart City(Smart Island)の考え方を踏まえた各施策の連携について	(問題)都市や離島における多様化する固有課題の解決のため各施策の連携が求められている。 (課題)各施策の連携について、AI、IoTなどの新技術を用いて都市や地域の課題を解決するSmart City(Smart Island)の考え方を踏まえた取組の検討が必要である。	P193 P194	(2) 県土の均衡ある発展を支える「東海岸サンライズベルト構想」の展開 □ マリントウンMICE エリアにおいては、XR(仮想空間技術の総称)、センシング技術等の新技術の動向に留意しつつ、次世代のニーズに対応した大型MICE施設の整備、スマートシティの形成など、先進性を備えた魅力あるまちづくりを推進し、東海岸地域一帯の賑わいの創出を図る (3) 世界とつながる北部圏域、宮古・八重山圏域の持続可能な発展 □ 北部圏域並びに宮古・八重山圏域における諸課題の解決に向けては、ICT や先進技術・システムを積極的に導入・活用し、遠隔教育、遠隔診療、島しょ型モビリティの導入など、スマートアイランドの実現に向けた取組を推進する。

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 観光産業振興	首里城再建整備事業の推進について	(問題)令和元年10月31日に発生した火災により首里城正殿等が消失した。 (課題)首里城正殿等の早期の復旧・復興に向けた取り組みが必要である。	P48 P49	(5)悠久の歴史や伝統文化に育まれた魅力ある空間と風土の形成 □首里城の歴史は、琉球王国の歴史、まさしく万国津梁(世界の架け橋)として独自の文化を築いてきた歴史そのものであり、県民の心の拠り所として、かけがえのない場所となっている。このことから、首里城の復元はもとより、首里城に象徴される琉球の歴史・文化の復興に取り組むことが求められる。 ア首里城の復興 □令和元年10月の火災により焼け落ちていく首里城の姿は、県民のみならず、各国の人々に大きな喪失感を与えた。しかしその後から、首里城の焼失を我がことのように心を痛み、その復元に向けて何かできることはないかと多くの人々が立ち上がり、本県には国内外より激励の声や復興に向けた支援が数多く寄せられている。このような機運の高まりは、貴重で魅力ある琉球文化の価値を改めて認識することにつながっている。 □首里城の復元過程においても、世界の貴重な文化遺産である首里城を活用し、文化、教育、観光等に活用することが重要である。また、首里城の復興に当たっては、正殿及び関連施設の復元等の進捗状況に関して最大限の情報公開を行うとともに、「復興」の理念と道筋について、国内外へ積極的な情報発信や、首里城の復興や琉球文化に共感する県内外のすべての人が参画できるプロセスが重要である。

② 新たに生じた課題				
分野	課題の内容	課題設定の考え方	新たな振興計画(素案)記載箇所	記載内容
社会基盤整備 観光産業振興	首里城再建整備事業の推進について	(問題)令和元年10月31日に発生した火災により首里城正殿等が消失した。 (課題)首里城正殿等の早期の復旧・復興に向けた取り組みが必要である。	P49 P216	<p>①正殿等の早期復元と復元過程の公開</p> <p>□国及び首里城復元に関係する技術者・関係機関との連携の下、復元・修復に携わる人材の確保と育成に取り組むとともに、復元に必要とされる木材や赤瓦等の県産資材の調査・研究を進めるなど、県産資材の利活用に努める。</p> <p>□県民をはじめ国内外から寄せられた寄附金に関して、国との連携の下、正殿の木材や赤瓦など首里城の象徴的な箇所に活用し、首里城の早期復元に向けて取り組む。</p> <p>□今般の首里城火災に対し、国内外より激励や復興に向けた支援が数多く寄せられている中、首里城の復興に当たっては、正殿及び関連施設の復元過程の公開を行うとともに、「復興」の理念と道筋について、国内外へ積極的に情報発信し、県民や多くの方々の復興に対する継続的な関心につながるよう、観て、学び、楽しめる「見せる復興」に取り組む。</p> <p>①歴史文化の継承・発展</p> <p>□首里城を中心した歴史・文化の復興に向け、首里城正殿の早期復元や復元過程の公開、首里城公園の魅力向上や施設管理体制の強化、戦災により焼失した中城御殿や円覚寺等の文化財の保存・復元整備、第32軍司令部壕の保存・活用に向けた取組を推進する。</p>